（別紙4）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3370105946		
法人名	有限会社あずみ		
事業所名	グループホームあずみ　Aユニット		
所在地	岡山県岡山市東区益野町676－1		
自己評価作成日	平成23年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370105946&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13－1　県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成23年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①フロアが入居者、職員、皆が笑顔で集える場所になるように努めている。
②調理、畑、買い物等日常生活活動は入居者と職員が共同で行えるよう努めている。
③家族の方が面会しやすく、職員にも気軽に話しかけて下さるような雰囲気作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

このホームは、当初から2つのユニットの壁がなく、職員も利用者が生活面でも行動面でも交流している事が特長になっている。職員が庭で皆が遊ぼうとか畑で作物の手入れをする時は両方のユニットに声をかける。食事の調理をするのは、2つのユニット分を両方の厨房で分担をして作る。そこに両方の職員や利用者が交わり合って働いている。浴室も一つの風呂に入浴する。職員の詰所も中央に一つの空間で職員が共用している。職員の組織も、一人の施設長のもとで、各々のユニットにリーダーがおり、常々ミーティングを一緒にしたり、委員会も活動して、職員の行動も両ユニットが一体として成り立っている。利用者も両方のユニットを行き来して、お互い友達もつくり、生活を共にしている人も居る。このようなホームには利用者も職員も人間同士の付き合いをして笑顔一杯、元気に明るい居場所をつくっていた。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・基本理念を事務所に掲示し、毎日申し送り時に職員全員で唱和している。 ・新入職員にオリエンテーションで理念を伝えている。	施設長と2つのユニットのリーダー以下14名の職員が配置されており、理念をよく理解し、ホームでの利用者の暮らしの中で一人の人間として尊重し、職員及び利用者同士でお付き合いをしている。	理念で主張している内容をもっと日々の職員の仕事に充実していく為に、職員の仕事や利用者のケアに生かせる具体的な項目を目標にして、それを実行してみたらどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方に畑の野菜作りを教えて頂いたり、ホームの行事にお誘いしたり、地域の行事に参加したりしている。 （21・目標計画実施）	地域の方がボランティアとして参加してくれる人もあるが、もう少し積極的に付き合っていきたいと施設長は考えている。近所の人が利用者との話し相手に来てくれた人や介護家族の人が相談に訪れた事もあるクリスマスにイルミネーションを点灯させたらグループホームの存在を知ってくれた人が増えたそうだ。	グループホームの事、介護保険の事、認知症の事等の説明をチラシにして、近所に配布させてもらいながら、このホームから発信して近所の人に結び付くきっかけを投げかけてもらえば、近所の人とのつながりが深まるのではないかと思う。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流までで支援の方法の発信までは出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・家族・地域包括支援センター職員参加で、入居者や家族の要望、近隣の方へのお願い等話し合い、掲示している。	利用者家族・地区民生委員・町内会長・第三者委員と包括支援センターの職員が参加して運営推進会議を開催しているが、会議の開催回数や会議の内容にもう一歩工夫する余地がある。	運営推進会議のテーマをホームの身近なことから設定し、地域の人、家族、行政の人と一緒に考えられる内容にしたり、行事等に合わせたりして、年6回の開催をしてもらいたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問・相談など必要ある場合に連絡をするようにしているが、頻度は少ない。	運営推進会議の内容やテーマによって介護保険関係の窓口に拘らずに消防関係や高齢者福祉に関する色々な部署にも相談や情報収集、指導等積極的にアプローチしていこうと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、あずみ独自のマニュアルを作成、職員に周知している。建物の玄関の施錠は日中行っていない。外庭門扉は施錠している。	現在のところ身体拘束をしなければならない人や虐待するような行為は見当たらない。玄関の施錠もせず昼間は自由に出入りできるようにしいているが、万一飛び出しをした時は警察も含めて全力で探す体制もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修の参加により高齢者虐待防止法について学び、職員に周知し、日々注意を払っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学ぶ機会を設けている。実際に制度利用されている入居者がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	重要事項説明書、運営規程の掲示をし、契約時には説明を行い、質問を受けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部機関の行なう家族へのアンケート実施。家族、入居者の意見、要望は常に聴く環境をつくり、運営推進委員会や職員会議の議題とし、話し合っている。	家族と面接したり、ホームを訪問してくれた時は、家族が話をしやすい雰囲気ときっかけづくりをしている。家族が食事時間をかけて訪問してくれた時には、居室で本人と家族が食事をしながら、ゆっくり過ごしてもらい、そこから本人の様子を知ってもらうようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議、各委員会を定期的に開催し、話し合いの場を設けている。議事録は職員全員目を通すようにしている。	各ユニットのリーダーと職員は隔てのない間柄にあり、常に意志疎通ができている。施設長とリーダーのコミュニケーションはしっかりして、施設長の主催する全職員を対象とした月1回の職員会議、広報･給食･行事･感染拘束の4つの委員会で運営に関する話し合いが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	毎日の業務連絡、職員会議への参加、その他の会議録にて現場運営を把握している。 会社負担でのリフレッシュレクリエーション実施。処遇改善交付金の支給。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得時の援助。 研修費の負担。 勤務シフトの調整を行っている。 研修情報の提供。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流会に定期的に参加し、情報交換、勉強会の機会を作っている。 研修会等でネットワーク作りをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを詳しく取り、声掛け、気配りをより細かく行ない、寄り添うことで信頼関係を築いて行く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族とゆっくりと話をする時間を持ち、あずみの方針をしっかりと伝え、入居後はなるべく面会の機会を多く持って頂くようお願いする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の施設等の情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの方があずみの生活の中で、役割を持って頂く。例えば料理等の家事、みんなをまとめる役、賑やかに盛り上げる役、大黒柱として座っている役など。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは密に連絡を取り、問題、情報等共有し、ケアプラン作成にも参加して頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方の面会がしやすい環境をつくっている。	利用者の精神的及び身体的状態が重度化してきているので、元気な時の馴染みになっていた人は段々と疎遠になってくるのは致し方ないだろう。このホームの利用者達とお互いに馴染めるよう、職員は関係づくりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで皆さん集まられている時は適度に職員も中に入り、話を繋ぐようにしている。プライバシーを尊重しながら無理強いしない程度にフロアや行事にお誘いする。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先への訪問、あずみへの訪問を受ける等のお付き合いが続いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での言葉、態度などから、希望意向を汲み取るようにしている。 ケア会議にも議題として取り上げ、職員全体が周知している。	利用者本人と家族の思いや希望等心の中をしっかり把握して、ホームの運営や介護計画に活かせるように、平成21年度の目標達成計画に組み入れて改善に着手できた。これからもこの課題は解決に向けて努力するだろう。	利用者本人や家族の意向や希望を把握すると言う事は、それぞれの人の本心をどのように知るかというコミュニケーション術と言葉からの本音を求める感性力が求められる。日頃からの利用者に対する関心の持ち方を深めてもらいたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはしっかりとアセスメントを取り、個人ファイルに綴じ、職員は閲覧できるようにし、入居後もさり気ない質問により状況の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録、健康チェック表、ケアプラン実施表に記録し、毎日の申し送りにて職員が情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者担当職員、計画作成担当者は、本人、家族の希望、要望を取り上げ、他ユニットの職員も参加してのカンファレンスを開き、介護計画作成している。 （21・目標計画実施）	利用者の色々な情報を基にアセスメントをする、又、介護項目のモニタリングをして、そのデーターから介護すべき内容を立案していくと言う単純な方式を持って介護計画をつくっている。カンファレンス会議にも本人や家族が参加するのも良い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアプラン実施表、経過記録の記入をケアプラン見直しに活かしている。	,	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本来は物品の準備や病院への通院、入院時の付き合いは家族にお願いしているが、ご家族の都合がつかない場合は職員が行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に来て頂き、踊りや歌などを見せて頂いたり、話相手になって頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	･契約時･入居後もその都度本人･家族に医療機関について意見を聞き、かかりつけ医を決めている。定期的な往診受けて頂いている。	利用者が自分を診療してくれてきた医師にずっと診てもらうか、ホームが提携している医師に診てもらうか、あるいは精神科や歯科等特殊な医師を選択しなければならない。入所時やその後もよく家族と相談して決めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護あり、バイタルチェック、医療相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後病院への訪問や電話連絡等により、家族や病院関係者との情報交換を常に行い、病院でのカンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、入居後も本人に重度化、終末期の介護について、ホームの方針を伝え、医療機関、他の施設の情報提供をしている。	重度化した利用者の生活をどのように支援していけるか、あるいは終末期の支援をどのようにするか、施設長の悩む課題である。利用者の介護度がアップしていくのを、どこまで看てあげられるか、家族の要望が強い中で、これからホームの姿勢をしっかりと検討していかねばならないと話してくれた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し掲示している。 消防署から署員の方に来て頂き、救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練（日中･夜間想定）を実施、マニュアルの作成をしている。緊急連絡網も作成している。近所のお家に緊急時の協力をお願いしている。	スプリンクラーの設置が完了した。この設備により火災発生が大きな災害となる危険性は少なくなったが、水害や地震等の災害があるので、利用者の避難は消防団や近所の人の協力を求めて行かねばならないと思う。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室、入浴時の脱衣所等に入る時はノック、声掛けするよう配慮している。 無理強いしない声掛けに努めている。	トイレや脱衣室に入った時に、職員の声掛けや行動についてはしっかりと話し合っているので、利用者の尊厳を守った支援が出来ていて問題ないと判断した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方の目線、ペースに合わせ、急がせたり、押し付けたりせず、話やすい環境づくりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や場所など希望を尊重する。入浴も拒否あれば時間をずらしたり、翌日にする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回の理美容活用。パーマをかけられたり、髪を染められたり、希望に沿って受けられている。女性にはお化粧したり、マニキュアなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりたたみ、盛り付け、下ごしらえ、食後の後片付けなど出来る事は一緒にしている。フロアに漂うおかずの香りで話が盛り上がる事もあり。	調理をするのは、ホーム全体をA棟の厨房で一人の職員が主体で、利用者も元気な人が手伝っている。食事をする場は2つの各々のユニットのリビングルームであるが、職員が両ユニットの仕事を共有している一つの場面である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師とも相談しながら個々に合わせた食事量形態で提供している。食べられない方には代替え食品（パン、麺等）を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、その人に合わせたトイレ誘導介助を行っている。オムツを減らす取り組みが十分出来ていない。	排泄は各利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導して、便器で排泄する事を基本としている。利用者の寝たきり状態の人等もいて、オムツを使っている人もいるが、2つのユニット共、異臭を感じる事はなかった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便を促すような水分摂取、運動の勧めを行う。自然排便困難な場合は医師と相談し、薬を活用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	強制はしないが、ある程度時間帯等決まっており希望に添えない場合もある。	入浴もAユニットの浴室を利用し、利用者全員がこの浴室で入浴する。入浴を担当する職員はその都度毎日施設長が指名する。調理の職員も同様である。ゆっくりと入浴して両ユニットの職員と利用者の交流できる場面でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調、生活習慣に合わせ日中、夜間の睡眠、休息支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬についてはファイルに綴じて職員が閲覧できる様にしている。 処方の変更時には申し送りにて伝達し、状態の変化に注意し、変化ある時は経過記録に記入して医師に相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、食事の後片付け等率先して手伝って下さっている。 はさみ将棋の得意な方の相手をしたり、カラオケで皆さんと歌を唄うなどしている。そうめん流し、バーベキュー等も行なった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての希望に添う事は出来ないが、コーヒーの好きな方とコーヒーを飲みに出掛けたり、昨年はサーカス、動物園、いちご狩り等に出掛け、皆さん大変喜ばれていた。	ホームの立地している場所は田園地帯で、季節の良い時はホームの庭で過ごしたり、周辺を散歩する。又、季節的な行事によって色々な場所にも出掛けたり、家族と一緒に出掛ける事もある。一泊旅行をしてみたらと家族にアンケートをした。結果は賛成者が多く、どんな計画が出来るか楽しみである。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望ある方は自分で金銭所持しておられるが、外で自分の財布で買物をする機会が作れていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば電話して頂いている。父の日、母の日にご家族からの手紙を贈って頂き、涙ぐみながら読まれる方もおられた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面所、玄関、中庭など季節の花を飾っている。エアコン、空気清浄機、床暖房などで空調している。	リビングルームはゆったりとした空間であり、利用者は快適な環境で生活できている。利用者の生活ぶりの写真や家族への便りが掲示してある。利用者は一人ひとりが[好きなように歌を歌ったり、お互いに話しかけて楽しい時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファー、テーブル等配置し、個々に寛げる場所をつくっている。自分の場所として捉えている方が多い為、ある程度席を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から慣れ親しんだ家具を持って来て頂いたり、写真、カレンダー、好きな芸能人のグッズを飾ったりしている。	利用者の使っていた家具とか写真や人形を飾っている部屋もある。自分の作った作品も飾っている。家族が面会に来ると、居室に入ってゆっくりと食事をしながら話をしている場面も見る事が出来た。利用者が自分の時間を過ごすこともできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イス自走でフロア内を回りやすいようなスペースの確保、安全な歩行のためフロア全体に手摺を設置している。居室、トイレ等には名前、文字を掲示している。		